

# 漢方の待合室

No.4  
2002 JANUARY

## 喘息

気管支喘息、いわゆる「ぜんそく」は慢性の気道炎症と考えられています。しかし、それだけではなく、アレルギーなど複数の原因が絡み合って複雑な病態を呈しており、油断をすると重篤な症状に陥り、死に至ることもある疾患です。

このため、適切な治療を受け、医師の指示に従って正しく服薬し、以下のような点に注意して生活を管理し、喘息をコントロールすることが必要となります。

### 生活環境

・掃除、換気、洗濯などをこまめ

に行い、ダニ、ハウスダストなどのアレルゲン除去に心がける

・ストレス対処法を身につけ、積極的にストレス解消をはかる  
・食生活、嗜好品に注意し、飲酒、喫煙はやめる

### 薬の服用

・医師の指示に従って服用時期、服用量をしっかり守り、勝手な自己判断をしない  
・副作用や効果の低下など、気になることが起きた場合は医師にすぐ相談する

### 状態の記録

・日常生活の様子、睡眠状態、症状の変化、服薬状態、ピークフロー値、健康状態、気象状況などを記録し、自己管理に役立てる

・旅先などで主治医に診察してもらえない場合に利用する

### 運動

・持続的に適度な運動を行い、体力維持につとめる  
・発作が誘発されないように必ずウォーミングアップを行い、冬季には薄いマスクをするなどの対策を取る  
・水泳などの発作の起きにくい運動から始める



## 今日の漢方処方 ..... 麻杏甘石湯《傷寒論》

麻杏甘石湯はその名の通り、麻黄、杏仁、甘草、石膏で構成されています。麻黄湯の桂枝の代わりに石膏を加えた処方で、体内の熱を冷ます効果があり、肺や気管支の炎症に伴う咳嗽や呼吸困難に効果を発揮します。甘味があるので、小児にも使用しやすい処方です。

### 麻杏甘石湯の構成生薬

マオウ 麻黄    セッコウ 石膏    キョウニン 杏仁    カンゾウ 甘草

## 麻黄

麻黄の主成分エフェドリンは、日本人によって単離された成分です。麻黄の学名 *Ephedra* は、epi(上) + hedra(産)から「石の上に生ずる」の意があり、その学名にちなんでエフェドリンと名付けられました。



アドレナリン受容体のアゴニストとしてよく知られた化合物で、交感神経を興奮させるため、心拍数・心拍出量の増加、血管収縮と血圧上昇、気管支平滑筋弛緩などの作用を示します。また、中枢神経の呼吸中枢を興奮させるため、呼吸量が増加し中枢性の鎮咳作用も示します。

しかし一方、エフェドリンは覚醒剤原料としても有名で、その取り扱いが厳しく規制されています。聞くところによると、そちらの効果を期待し

て咳止めシロップを大量に服用する人がいるとかいないとか。

また、エフェドリンと聞いて思い出すのがドーピング検査。1984年のロサンゼルスオリンピックで、日本のバレーボール選手が風邪薬として服用した葛根湯が原因で、陽性と判定された出来事がありました。正確性を

を求められるドーピング検査においては、生薬や漢方処方だけでなく、食べ物でも陽性と判定されてしまう日が来るかも知れません。

医薬品は、その用法用量によって良くも悪くも作用する、良くも悪くも使用できる。麻黄はその代表的な薬物と言えるでしょう。